

食品ロス・廃棄物削減への取り組み

不二家では、商品の設計からお客様に届くまでに発生する食品ロスや廃棄物の削減に取り組んでいます。各工場では製造過程における食品ロス削減のため、品質の安定・安全供給を目指し、生産機械の改良、更新を行っています。包装ラインにおいても、改良や自動化を進め、包装資材の簡素化・軽量化を進めています。

◆食品リサイクル率実績と目標

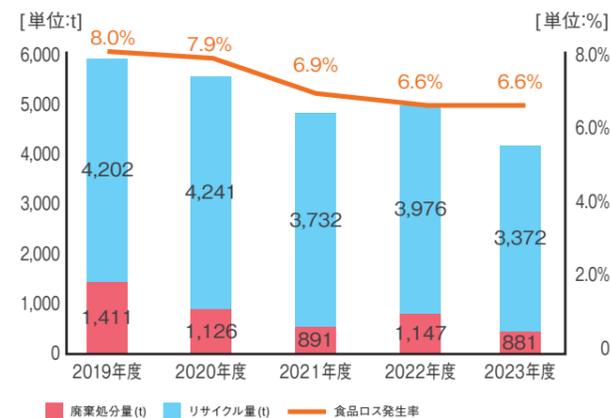
2030年度の食品リサイクル率95%達成を目標に、各工場等の製造工程で発生した廃棄物は、飼料・肥料等の原材料化、燃料等への再生利用を積極的に実施しています。

2023年度では発生した食品ロス4,253t（前年比83.0%）の内、3,372tをリサイクルしました。

	2023年度実績	2030年度目標
食品リサイクル率	79.3%	95.0%

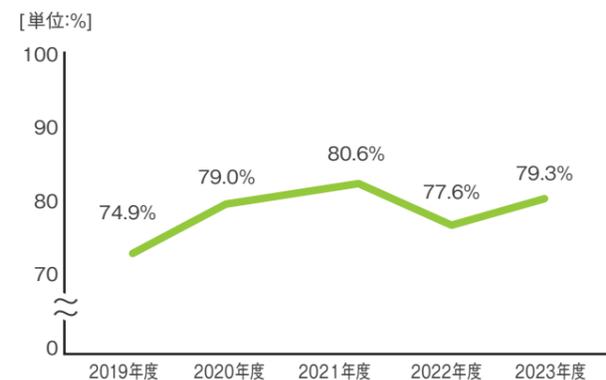
(2030年度末までに)

●食品ロスにおけるリサイクル率及び廃棄処分量



※集計対象：全9工場（秦野、平塚、富士裾野、埼玉、野木、泉佐野、吉野ヶ里、札幌、山形）

●食品リサイクル率推移

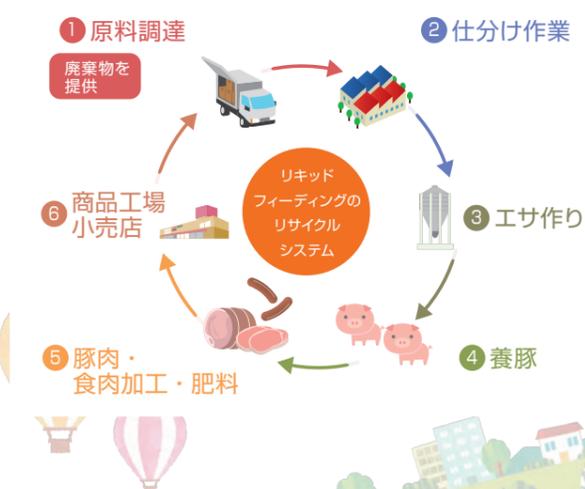


◆食品ロス削減の取り組み（食品リサイクルの取り組み）

不二家では各工場で発生した廃棄物をプライドピックグループが運用するリサイクルシステム「リキッドフィーディング」に提供し飼料化することで、可能な限り食品ロス削減に努めています。2023年度は、3,071tを飼料化しました。

また、洋菓子店舗では、多くの皆様楽しんでいただけるよう、日々多くの商品を取り揃えておりますが、その反面で商品が余ってしまう課題がありました。そこで販売後のロスを削減するため、食品ロス削減のためのフードシェアリングサービス「TABETE（タベテ）」を導入しています。

※2023年12月現在103店舗で実施



容器包装での環境負荷低減

製品の容器や包装については、製品をおいしく安全にお客様にお届けする「品質の保持」の役割を維持しながらも、省資源や廃棄時の環境負荷を低減する「環境配慮」の両側面を大切に取り組みを進めています。2023年においては包装材料の削減（サイズダウン）や環境に配慮した包装材料の使用促進に取り組みました。

◆FSC 認証紙の使用

近年、世界で森林資源が失われ、環境及び社会経済に深刻な影響をもたらすことが危惧されており、不二家では紙製容器でのFSC®*1認証紙*2への切り替えを推進し、使用を拡大しています。

菓子製品の小箱や洋菓子店舗で使用している紙器などに関しては、ほとんどFSC認証紙を使用した包材への切り替えが進んでいます。



*1 FSC® (Forest Stewardship Council®、森林管理協議会) 責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする、独立した非営利団体であり、国際的な森林認証制度を運営している組織。
*2 森林の管理や伐採が、環境や生態系、地域社会に配慮して適切に行われているかなどの、評価・認証を受けた原材料を使用した紙のこと。

◆プラスチック削減

各商品に使用する外装や個包装、トレーなどについては、プラスチック使用量削減に向けサイズや厚み、材質などを随時見直しています。2022年からは主力商品であるカントリーマアムブランド3品の外装サイズを縮小し、合計で年間約100tのプラスチック削減に取り組んでいます。

「100gミルキー袋」の外装は、2020年から紙パッケージを採用しています。キャンディ個包装もこれまで通りの包み紙を使用し、脱プラスチックを実現しています。



●薄肉化実績

	ホームパイ	ピーナッツチョコレート
薄肉化実績	約17%削減	約20%削減

◆ダンボール

商品の外箱や品質に影響がない範囲で薄肉化やサイズの縮小を進めています。サイズの縮小により多くの商品を積載し、配送効率の向上を図っており、保管・輸送に関わるエネルギー使用量の抑制にも繋がっています。

2023年度は「アンパンマンコロコロビスケットボーロ」「アンパンマンひとくちビスケット」「アンパンマン幼児用ビスケット」の3品のダンボールを薄肉化し、配送効率の向上を図りました。1ケースあたり約2%のCO₂削減に繋がっています。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

◆バイオマス素材の活用

一般のインキに用いられている原料は石油であることが多いですが、石油は枯渇資源の1つです。バイオマスインキとは樹木や米ぬか等の再生可能な有機性資源を一部使用したインキのことで、バイオマスインキを使用することで石油の使用量を抑制でき、またカーボンニュートラルの実現にも貢献することができます。

不二家では、菓子製品の外装や内装をはじめ、ほぼすべての包材に植物由来のバイオマスインキを使用しています。2021年からは、洋菓子店舗やレストランのポリ袋や紙袋を環境に配慮した素材に変更しています。



不二家ファミリー文化研究所

不二家ファミリー文化研究所は、私たち不二家の「もっともっとファミリーの幸せに貢献していくためには何ができるだろう?」という想いから2003年4月に誕生しました。テーマは「伝えていきたい自然伝えていきたい家族の絆」。自然から生み出される食材を扱う私たちにとって、言うまでもなく大切な「自然」を守っていくこと。そして、「ファミリーの不二家」という理念のもと、お菓子を通じて家族の幸せな時間を作るお手伝いをしてきたこと。それらのことを、考え行動し伝えていくための研究所です。

◆自然環境保護活動

不二家ファミリー文化研究所は、自然環境保護活動の一環として、長野県黒姫にある荒廃した森を購入し、その森を整備保護していただける団体にトラスト活動として寄贈しました。また寄贈先のご理解を得て、その森を「ペコちゃんの森」と命名し、継続的に整備活動への支援・参加をしています。

この森は、熊笹や灌木の覆い茂った藪そのものでしたが、数年の手入れを経て徐々に明るさを取り戻し、2012年にブナやミズナラを植樹しました。以降、CCC自然・文化創造会議/工場様のご協力のもと、本社や支店・工場など、さまざまな部署の社員が有志で参加し、定期的に不要な下草を伐採して地面に日光を導き、ブナやミズナラをはじめとする木や草が生い茂る明るい森作りに取り組んでいます。

この森を通して、自然の力と人間の営みについて学びながら、森林の再生と保護、環境教育活動を継続して行っています。また、徐々に変化している「ペコちゃんの森」の様子は、不二家ファミリー文化研究所のウェブサイト内にてご報告しています。

※寄贈先は、環境保護団体「CCC自然・文化創造会議/工場（議長 倉本 聡氏）」です。



▲「ペコちゃんの森」整備活動の様子

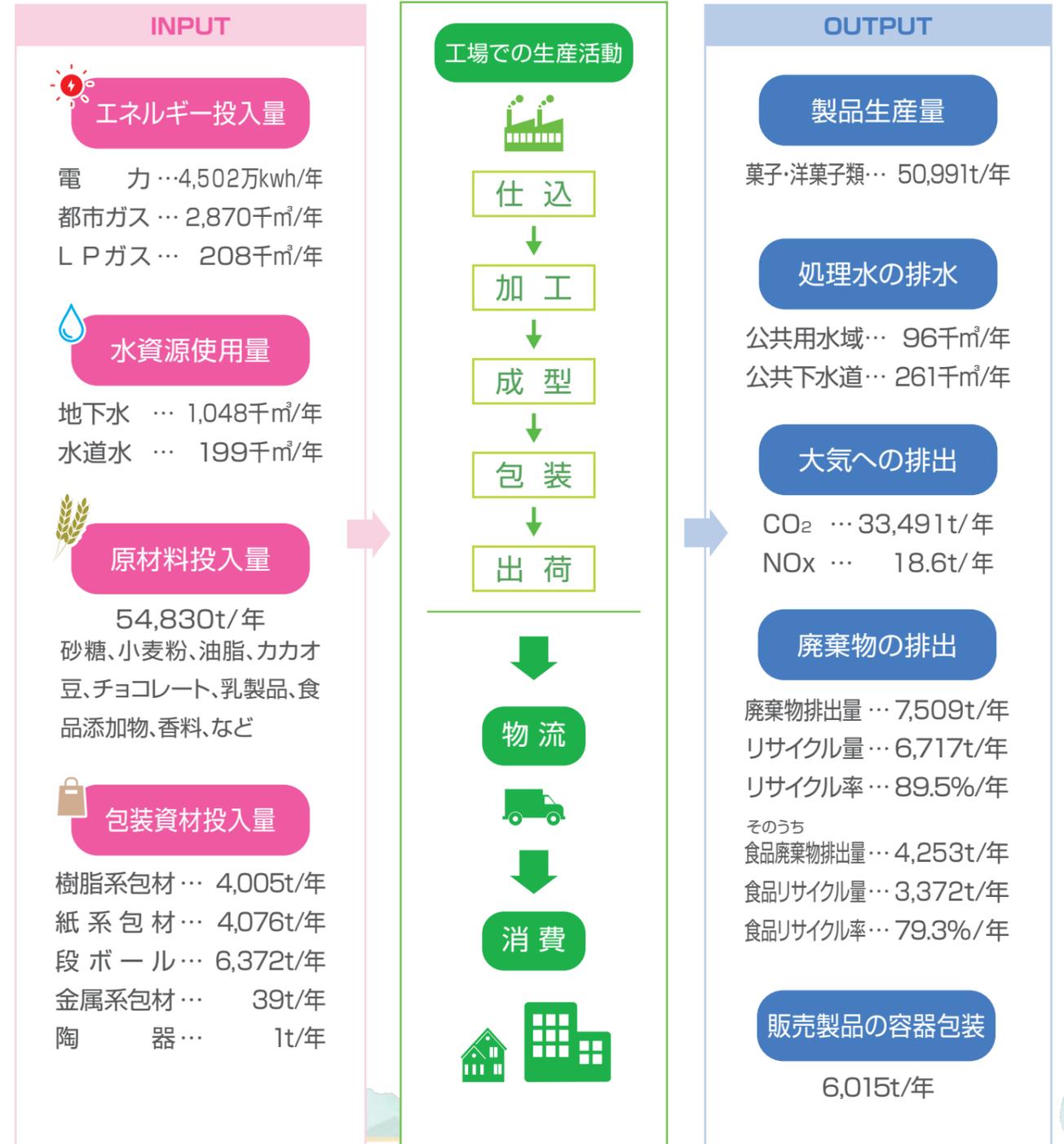


<不二家ファミリー文化研究所>
<https://www.fujiya-peko.co.jp/mori/>

環境データ（マテリアルバランス）

不二家では、事業活動におけるエネルギー及び資源の投入量（インプット）と、その活動にともなって発生した製品及び環境負荷物質（アウトプット）を正しく把握し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

●2023年度マテリアルバランス



※集計対象：秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、埼玉工場、野木工場
 ※期間：2023年1月～2023年12月